

第2号議案 2005年度事業報告に関する件

1. 学術集会, 学術講演会等の開催

1) 年次学術集会

第52回学術集会として2005年6月2日(木)~4日(土), 場所: 神戸ポートピアホテル.
テーマ: 「前進する麻酔科学~麻酔科学はどこまで来たか.どこに向かうのか~」.参加者数は,6600名, 特別講演1, 会長講演, 学術講演9, 教育講演18, 招請講演11, シンポジウムおよび討論会20, 基調講演15, ワークショップ4, 日本麻酔科学会賞受賞講演(山村記念賞, 若手研究者奨励賞), 社会保険専門部会企画, 安全委員会企画, 麻酔台帳の説明会, 医学生招待企画, AHA-ACLS インストラクターコース, リフレッシュャーコースを行った.

2) 支部の学術集会

各支部で合計9回の学術集会が開催された.

- ・ 第53回北海道地区学術集会(主催: 岩崎 寛) 2005年9月10日(土) 北海道大学医学部臨床講義棟
- ・ 第62回東北地区学術集会(主催: 鈴木健二) 2005年9月17日(土) 岩手医科大附属循環器医療センター
- ・ 第45回関東甲信越・東京支部合同学術集会(主催: 大村昭人) 2005年9月24日(土) 虎ノ門パストラル
- ・ 東海・北陸支部第2回学術集会(主催: 八田 誠) 2006年2月11日(土) 安城市文化センター
- ・ 東海・北陸支部第1回学術集会(主催: 土田 英昭) 2005年9月3日(土)~4日(日) 石川県教育会館
- ・ 第51回関西支部学術集会(主催: 野坂修一) 2005年9月3日(土) ピアザ淡海 県民交流センター
- ・ 第42回中国・四国支部学術集会(主催: 前川信博) 2005年9月17日(土) 香川県民ホール
- ・ 第43回九州支部学術集会(主催: 中島 幹夫) 2005年9月17日(土) 佐賀市民文化会館

3) 教育講演の開催

第4回リフレッシュャーコースとして2005年6月4日(土)神戸ポートピアホテルにて開催した.
危機管理, 麻酔の安全, 痛み・ペインクリニック, 循環系, 呼吸器系, 特殊麻酔の5コース3講座で, 実参加者数706名, 延べ参加者数は1695名であった.

2. 学会誌その他の刊行物の発行

1) 学会誌

「Journal of Anesthesia」誌を季刊で4号(Vol.19-No.2~Vol.20-No.1)を発行した.

2) 準学会誌

「麻酔」誌を月間で12号(Vol.53-No.4~Vol.54-No.3)を発行した.

3) 学会ニューズレター

社団法人日本麻酔科学会ニューズレターを季刊で4号(Vol.13-No.2~Vol.14-No.1)を発行した.

4) 学術集会抄録およびプログラム

社団法人日本麻酔科学会第52回学術集会抄録(CD-ROM)およびプログラム集を発行した.

5) 会員名簿および年報

2005年度会員名簿および年報をホームページに掲載した.

6) 教育講演テキスト

2006年開催の第5回リフレッシュコーステキストを発行した。

2. 学会認定医等の認定

1) 認定医等の新規認定, 資格試験の実施

< 新規認定医 >

2005年度は, 標榜医の審査時期にあわせて, 2005年4月・7月・10月・2006年1月の計4回認定審査を行い, 2005年度新規認定認定医審査合格者数は353名となった。

第1回申請者:	66名	合格者:	66名(2005年4月1日認定)
第2回申請者:	91名	合格者:	91名(2005年7月1日認定)
第3回申請者:	122名	合格者:	122名(2005年10月1日認定)
第4回申請者:	74名	合格者:	74名(2006年1月1日認定)

< 新規専門医 >

2005年9月30日, 10月1日, 神戸ポートピアホテルにて第44回麻酔科専門医認定試験が実施された。2005年度新規認定専門医試験合格者数は223名となった。

旧制度口頭・実技	受験者数:	126名	合格者:	113名	合格率:	89.7%
新制度3科目(筆記・口頭・実技)	受験者数:	133名	合格者:	103名	合格率:	77.4%
合計	受験者数:	279名	合格者:	223名	合格率:	79.9%

新制度筆記	受験者数:	9名	合格者:	2名
口頭	受験者数:	3名	合格者:	2名
実技	受験者数:	2名	合格者:	1名
筆記・口頭	受験者数:	1名	合格者:	1名
口頭・実技	受験者数:	2名	合格者:	1名

< 新規指導医 >

2005年10月28日, 事務局にて2006年4月1日麻酔科指導医新規認定の審査会が開催された。2006年度麻酔科指導医審査合格者数は513名(うち専門医更新対象者394名)となった。

< 新規認定病院 >

2005年度は, 申請状況に応じて4回認定審査を行い, 2005年度新規認定病院数は76施設となった。

第1回申請施設:	20施設	合格施設:	20施設
第2回申請施設:	15施設	合格施設:	15施設
第3回申請施設:	27施設	合格施設:	27施設
第4回申請施設:	14施設	合格施設:	14施設

2) 認定医等の資格更新審査

2006年2月23日, 事務局にて2006年4月1日麻酔科専門医更新予定者, また2006年1月27日麻酔科認定病院更新予定施設の審査会が開催された。2006年4月1日麻酔科専門医更新予定者は1113名となった。

専門医更新申請者:	1503名	認定者:	1113名
特例申請者	: 102名		
不認定者	: 3名(取消2名, 認定医更新1名)		
資格喪失者	: 285名(辞退者(未提出者も含む)282名(取消245名, 認定医更新35名, 認定医特例2名)		

指導医不合格者による専門医更新申請者： 17名 認定者： 11名 特例認定者： 6名
2006年4月1日麻酔科認定病院更新申請施設は 552施設であり，540施設の認定となった。

3. 研究の奨励及び研究業績の表彰

社団法人日本麻酔科学会学会賞3賞（山村記念賞・青洲賞・若手奨励賞・社会賞）の2005年度受賞予定者の選考を行い，以下のとおり決定した。

1) 山村記念賞

樋口 秀行（東京女子医科大学麻酔学教室）
「MRIによるneuraxial block に関する研究」

2) 青洲賞

工藤 明（弘前病院麻酔科）
「総合失調症を有する患者の周術期管理に関する研究」

3) 若手奨励賞

（基礎）

佐藤 友紀（自治医科大学麻酔科学・集中治療医学講座麻酔科学部門助手）
「全身麻酔薬の中樞神経作用メカニズムにおけるNMDA受容体の関与」

（臨床）

荻野 祐一（群馬大学麻酔科医員）
「ヒト痛覚の体部位再現 - 脳磁図を用いて」
“Somatotopy in Human Primary Somatosensory Cortex in Pain System”

4) 社会賞

松木 明知（弘前大学名誉教授）
「医史学的研究による「日本の麻酔科学の歩み」の解明」

4. 研究及び調査の実施

1) 麻酔関連偶発症例調査

麻酔科認定病院960施設を対象に行い，850施設から回答があり，回収率88.5%であった。麻酔関連偶発症例調査2003の解析発表完了。麻酔関連偶発症例調査2004の一部の解析結果発表。麻酔台帳による麻酔偶発症例調査2005の配布，実施。麻酔台帳2006の作成と配布。「術前合併症としての出血性ショック」，「手術が原因の大出血」が原因による偶発症に関する追加調査の実施と麻酔誌発表を行った。麻酔関連薬剤の投与に関するインシデント調査2005を実施した。

2) 麻酔関連機器故障情報調査

麻酔関連機器で故障が発生した場合，あるいは規格自体に問題がある機器に関して常時窓口を設け，ホームページを通じて常に情報を収集し，即時にフィードバックした。

3) 麻酔薬および関連薬品等の適正使用に関する調査
適応外の薬剤の要望，薬物乱用者の回復に向けた対応策を検討した。

4) 麻酔関連機器 JIS 規格に関する検討
ISO 21647:2004 Medical electrical equipment -- Particular requirements for the basic safety and essential performance of respiratory gas monitors (医用電気機器 - 呼吸ガスモニタの基本的安全性及び必須性能に関する特殊要求事項) を翻訳した。

5) Closed Claims Study の推進と研究
インシデントレポートの収集および分析し，予防策を普及した。

6) 周術期肺血栓塞栓症発症例調査
わが国における周術期肺血栓塞栓症の発生状況，予防法，治療法等に関して現状を把握するために，日本麻酔科学会認定病院 960 施設において，2004 年度の周術期肺血栓塞栓症（以下 PTE）に関するアンケート調査を行なった。結果として，642 施設から回答（66.9%），そのうちの 245 施設で 409 例の周術期 PTE 発症を認めた。発症率は母集団を 409 施設の全麻酔科管理件数（1,131,154 件）で除すると，2004 年周術期 PTE 発症頻度は 3.62 人（1 万症例対）であった。

6. 関連学術団体との連絡及び協力

1) 登録・派遣

日本学術会議，日本医師会，日本医学会，厚生労働省医道審議会標榜医審査会，日本専門医認定制度機構，大学評価・学位授与機構，日本外科学会，外科系医学会社会保険委員会連合，外科関連協議会，日本救急医療財団，日本蘇生協議会，3 学会合同呼吸療法士認定委員会，医療機能評価機構，骨髄移植推進財団等に委員を派遣し，各々の目的と事業に合わせ連携・協力予定。

2) 各種学術集会協賛・後援

日本学術会議シンポジウム，日本臨床麻酔学会市民公開講座，社団法人日本 ME 学会 ME 技術講習会・検定，財団法人日本救急医療財団「救急の日 2005」等，バイオメディカルファジィシステム学会学術集会等，関連協力団体の学術集会および講習会，市民公開講座等を協賛・後援した。

7. 国際的な研究協力の推進

1) 世界麻酔学会

世界麻酔学会理事および各種委員会委員を派遣した。

2) アジア・オーストラレイシア麻酔学会 (AACA)

会計理事を派遣した。2010 年日本大会開催準備のために AACA 実行委員会を設置し，具体的な事業計画を立案した。

3) 海外留学奨励

2005 年度海外留学希望者を通年に渡り募集した。

4) アジアン・シンポジウム

2005 年度開催のアジアン・シンポジウムの企画立案，運営を行った。

8. 普及啓発活動

市民公開講座を 10 回開催し、正しい麻酔科学と医療の普及啓発した。また「麻酔の日」にあわせ毎日新聞、読売新聞全面に広告した。

1) 「麻酔の日 2005」

市民公開講座「身近な麻酔」を 2005 年 10 月 9 日(土)、10 日(日)の 2 日間にわたって JR 札幌駅西コンコースイベント広場にて開催した。麻酔科医の役割、麻酔の歴史、当学会の活動内容を説明したパネルの展示、アナウンサーの小川千鶴子氏を司会として招き手術室時の麻酔の様子を麻酔科医とともに解説する「オベステージ」、新生児、小児、成人の人形を用意し心肺蘇生を学んでもらう「蘇生実習」、一般市民からの麻酔関連の質問に麻酔科医が答える「麻酔の相談窓口」の 3 つの企画に絞り実施した。参加者数は 3200 名であった。

2) 各支部学術集会開催時

各支部学術集会開催時あるいは 10 月 13 日「麻酔の日」近辺の日程で、「麻酔」をテーマに計 8 回の市民公開講座を開催した。

9. その他目的を達成するために必要な事業

各種委員会活動を通じて事業目的を達成した。各委員会とも事業内容によって、実務を執行する専門部会を組織し、積極的な事業展開に努めた。詳細は各委員会議事録を参照。

1) 総務委員会

本年度は 2005 年 2 月 9 日に公表した「麻酔科医マンパワー不足に関する提言」にある具体的な事項の実現を図るため活動を行なった。国民に麻酔科医の業務内容を知ってもらうための広告、雑誌取材の積極的受け入れ、女性医師復帰プログラムの検討、専門医の資格喪失者のための再認定制度の提案、麻酔科医の業務の系統化、手術室の有効利用のため日本看護協会、日本手術看護学会、日本薬剤師会との話し合い、保険診療上の適切な働きかけ等を行なった。手術室内での看護師、臨床工学技士、薬剤師との協力については、第 53 回学術集会において、シンポジウム「手術室内の協力体制について」を企画した。麻酔に関わる看護師については、検討会を組織し、日本看護協会と制度作りを行なっている。その他、中長期計画作成、福井大学調査委員会、脳死診断に関わる要望の検討、理事選任選挙、副会長選挙、専門医、学会内部の総務にかかわる事項も審議・執行した。

将来構想検討専門部会では、中・長期計画の作成をおこなった。

社会保険検討専門部会では、平成 18 年度診療報酬改定に向けて改定案を作成し厚生労働省へ要望を行い反映された。改定案は従来通りの方式で専門性を重視し、全身麻酔の重症患者に対する増点、側臥位の追加、OPCAB、麻酔管理料の増点等を挙げた。その他の活動は、本年度外保連診療報酬要望書の作成、診療報酬に関するシンポジウム、相談ブースの開催、診療報酬に関する質問への回答等を行なった。昨年度に引き続き第 53 回学術集会時に新点数に関する説明するシンポジウムを企画した。2005 年度選挙については、2009 年度副会長選出選挙を実施した。

2) 財務委員会

予算・決算に関する事項、資産の管理・運営に関する事項、各種事業費に関する事項、その他財務に関する事項について協議、答申、執行した。今年度は東京国税局麻布税務署法人課税第七部門より公益法人の無作為抽出による調査が行なわれた。

- ・ 予算書・決算書の作成
- ・ 貸借対照表・財産目録・正味財産増減計算書の作成
- ・ 事業費・管理費のバランスおよび支部会収支計算書と事業報告のチェック
- ・ 基金・引当金の設定と管理

・特別会計の学術集会会計，各支部会計に関する連結決算・予算表の作成

3) 学術委員会

学術委員会では，機関誌の編集・発行に関する事項，学術集会の運営に関する事項，麻酔科学用語に関する事項，学会賞に関する事項等を中心課題として協議，答申，執行を行なった．

機関紙専門部会では，Journal of Anesthesia の引用を増やすべく，JA シンポジウムを企画した．

学術集会企画専門部会では，学術集会の運営の方針，今後の学術集会プログラムのテーマの検討を行った．

4) 倫理委員会

麻酔科関連領域の医学・医療の倫理に関する事項を検討した．

・神奈川県立こども医療センター麻酔科医薬物使用，慶應義塾大学院生大麻取締法違反に関する件について倫理調査委員会を結成し，会員への懲罰も含めて審議をおこなった．

5) 教育委員会

2005 年度は，新認定制度実施に伴う問題点の整備，専門医資格喪失者の再認定制度の構築および会則の変更，標榜医の再教育制度の構築，卒前教育の各施設における実態調査，第 4 回リフレッシュャーコースの実施，第 5 回リフレッシュャーコースの立案等行った．

認定審査委員会は認定医，専門医，指導医，認定病院の審査，認定を行った．

6) 安全委員会

安全委員会では，麻酔関連のリスクマネジメントに関する事項について協議，答申，執行した．各部会の相互の事業内容をトータルに把握し，より国民のための安全な医療を提供することを目標とした．医療安全における問題の所在をあきらかにするために全国規模の実態調査を実施し，原因の究明を行い，また未然防止が可能であったかどうかについて十分な検討を行うことから始まり，医療現場に向けた現状のアナウンスおよび改善・防止策のフィードバックを行なった．事業への取り組みにあたっては，全事業2005年度は各部会で行っていた事業を統括し，安全委員会直轄の4つのワーキンググループを組織した．

偶発症例調査ワーキンググループは，偶発症例調査専門部会の事業を引き継ぎ，より会員にフィードバックできるデータの収集を行った．昨年度から引き続き行ってきた麻酔台帳の普及，「偶発症例調査2005」，「術前合併症としての出血性ショック・手術が原因の大出血に関する追加調査2005」の実施と麻酔誌と麻酔誌発表，偶発症例調査2004の解析，第52回学術集会，日本外科学会で麻酔台帳ブースを開設した．麻酔台帳の配布に伴い，多くの問題点が会員から指摘されたため，アンケート調査を実施し，対応した．

麻酔機器安全対策ワーキンググループは，手術室内のハード部分のリスクマネジメントを行い，麻酔機器故障情報提供，ホームページ広報，JIS原案（呼気ガスモニター）を作成した．

肺血栓塞栓症ワーキンググループは，2004年度アンケート調査の結果報告，2005年度アンケート調査結果分析，2006年度アンケート調査実施，深部静脈血栓症のスクリーニング法の提唱，肺塞栓症対応マニュアルの作成を行った．また第53回学術集会パネルディスカッション「肺塞栓予防ガイドラインと予防保護収載の効果」を企画，立案した．

Claims Closed Study (CCS) ワーキンググループでは，CCS報告書を検討した．

麻酔手技における事故防止対策調査ワーキンググループは、ヒューマンエラーで起こりうるリスクマネジメントを行い、CVラインに関するガイドラインの検討、大量輸血ガイドラインを検討した。また、第53回学術集会シンポジウム「危機的な急速出血への対応」を企画、立案した。

医薬品適正評価ワーキンググループは、主に麻酔科医の薬剤乱用防止のための施策を検討した。具体的には、薬剤乱用防止施策および関係各所への折衝、ASA薬剤乱用ガイドラインの翻訳およびホームページへの掲載、薬剤管理アンケート結果を報告した。また、保険適応すべき薬剤について会員から意見を募り、関係各所に働きかけた。

7) 国際交流委員会

国外の諸団体との交流を促進する目的に沿って事業を行った。AACA2010に向けてアジア諸国との交流をはかるため、第52回学術集会時にアジアシンポジウムを開催し、第53回学術集会時同企画を立案した。AACA2010については、AACA実行委員会を立ち上げ、予算の検討、シンボルマーク、キャッチコピーを会員から応募し決定した。また、Trauma Care2008を誘致し、実行委員会を立ち上げた。2005年度海外留学希望者を通年に渡り募集した。

8) 関連領域検討委員会

麻酔科医の活躍の場として、救急医療、集中治療、ペインクリニックを紹介し麻酔科医のフィールドの広さを多くの医師、学生に周知し、学会としてよりよい業務環境を整える目的に沿って事業を行った。各領域での現状、問題点を挙げた。第53回学術集会でこれらの領域についてシンポジウム形式で公表する。

救急医療・心肺蘇生法専門部会では、2005年にAHAトレーニングサイトを立ち上げ、下記の日程で会員を中心としたコース受講機会の拡大、インストラクターの養成を行なった。インストラクターに関しては、日本循環器学会、日本救急医学会の会員も受講してもらい、今後協力して活動を行っていくこととした。ガイドライン2005による改定作業、救急救命士の気管挿管実習の実態把握を目的としたアンケート調査を行なった。

集中治療、ペインクリニック領域に関してはワーキンググループをおき、集中治療・ペインクリニックに係わる麻酔科医の現状について調査した。

2005年6月4日	AHA	ACLS	インストラクターコース(一日コース)	神戸国際会議場
2005年6月5日	AHA	ACLS	インストラクターコース(一日コース)	神戸国際会議場
2005年8月20日	AHA	BLS	プロバイダーコース	品川プリンスホテル 麻酔科学会理事対象
2005年10月10日	AHA	ACLS	インストラクターコース	慶應義塾大学信濃町キャンパス
2005年11月17日	AHA	ACLS	インストラクターコース	大阪国際会議場
2006年1月28-29日	AHA	ACLS	プロバイダーコース	豊海区民館
2006年2月25-26日	AHA	ACLS	プロバイダーコース	広島市民病院
2006年2月25日	AHA	BLS	プロバイダーコース	広島市民病院
2006年2月26日	AHA	BLS	プロバイダーコース	広島市民病院
2006年3月18-19日	AHA	ACLS	プロバイダーコース	大阪市立大学看護短期大学部

9) 広報委員会

広報委員会では、一般市民に対する広報活動としての継続した市民講座の開催、新聞広告、ドラマ作成、学術集会時、民間業者を媒体とした学生、スーパーローテータに対する継続的な働きかけ、ニューズレターの編集・発行に関する事項、ホームページの運営等に関わる事項等を協議、答申した。

市民公開講座「麻酔の日2005」を企画・運営し、2005年10月9日（土）、10日（日）JR札幌駅西コンコースイベント広場にて開催した。一般市民約3200名が参加した。

ニューズレターはタブロイド版とし、年間4回編集、発行した。麻酔啓発用小冊子の内容を検討した。学術集会時には、引き続き、学生招待、スーパーローテーター企画を行う。テーマ別にシンポジウム、相談ブースを企画する。

10) 支部管理委員会

支部事業、会計の運営を円滑にするために各支部での問題点を整理した。支部長、支部事務局の職務を明確にし、より効率的な支部運営を行えるようマニュアルを作成した。支部事務局には支部専従職員を置くこととした。

以 上